

2 日本一の茶産地育成

成果の要約

- 1 茶れきくんとアグリノート連携で生産工程情報管理の効率化を目指す実証がスタート。JGAP・ASIAGAPでは認証内容のレベルアップが図られ、経営体質は継続的に強化している。
- 2 チャトゲコナジラミ被害軽減のために放飼した天敵は、管内全域で定着を確認した。輸出可能な茶園として団地化された有機栽培茶園が増加し、茶市場出荷量も増加した。
- 3 消費拡大活動や仕上げ茶品質向上の取組み支援で仕上げ茶販売農家数が増加した。全国お茶まつり大会の開催を契機に新たな茶種の生産を支援し、てん茶や玉露などにチャレンジする生産者が現れた。

1 対象

- | | |
|----------------|--------|
| (1) 実証工場 | 6 工場 |
| 南薩地区茶業振興会員 | 157 工場 |
| (2) 各市茶業振興会員 | 893 戸 |
| 輸出茶研究会会員等 | 67 工場 |
| (3) 仕上げ茶販売志向農家 | 60 戸 |
| 各市茶業振興会 | 3 組織 |
| 出品茶取組農家数 | 49 戸 |

2 課題を取り上げた理由

- (1) 茶業の担い手・労働力不足など厳しさを増す経営環境に対応するため、スマート農業技術の導入や GAP 実践により経営体質を強化する必要がある。
- (2) 茶価の低迷や資材の高騰など生産・販売環境の悪化に対応するため、良質安定生産に加え輸出茶など新たな生産体系を確立する必要がある。
- (3) 2020 年に当地区で開催される全国お茶まつり鹿児島県大会へ向けた取組を契機に産地の活性化とブランド力を高める必要がある。

3 活動の内容及び成果

- (1) 力強い経営体の育成
ア スマート技術導入実証



写真1 アグリノート記録実態調査

生産履歴管理システム「茶れきくん」と営農支援アプリ「アグリノート」を連携させ、生産工程情報管理とGAP対応の効率化を図ることとした。

9月には経営形態が異なる6工場を含む南九州市スマート農業（茶業）推進協議会を設立して同システムを活用するための実証活動をスタートさせ、2年後の普及拡大を目指してマニュアル作成に着手した。

イ GAPをする茶工場支援



写真2 GAP推進フォーラムで優良事例発表

農薬ドリフトや異物混入対策等について研修会で指導し、認証審査や内部監査に立ち会うなどして改善活動を支援した。

GAP や ISO を有効に活用している若手茶業者が育成され、県域推進研修会で事例発表を行うなど認証内容のレベルが高まっている。

- (2) 生産性向上
ア 生葉単収の向上

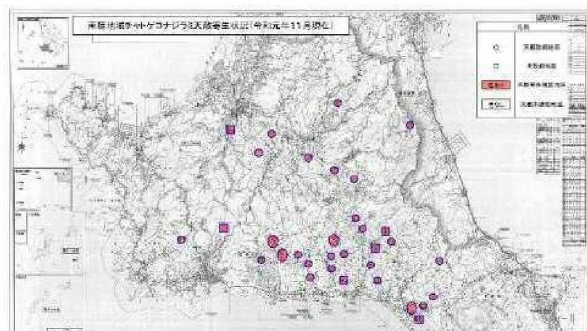


写真3 チャトゲコナジラミ天敵確認位置図

侵入害虫チャトゲコナジラミの被害軽減のために天敵シルベストリコバチの簡易放飼を技連会で実施した。天敵未確認地域への重点放飼により全域での定着を確認した。

良質茶生産に有用な茶園管理対策について座談会や講習会で指導した。また、有機栽培や品評会茶生産では、整枝技術のほか施肥技術について土壌診断や関連する普及成果情報を活用して指導した。

イ 輸出向け対応可能面積拡大



図1 南薩地区輸出(US向け)・有機茶出荷量

研修会や情報誌発行を通じた輸出茶研究会員への情報提供、少量農薬散布機の輸出防除体系での実証、補助事業を活用した有機茶園の団地化推進などの活動により、県茶市場への輸出向け可能な茶の出荷量が大幅に増加し、特に有機茶で顕著であった。

茶園管理ごよみ 一般・米国輸出向け共通

項目	内容
1. 茶園の概要	茶園の位置、面積、品種、栽培方法など
2. 茶園の整備	茶樹の選別、整枝、施肥、灌水など
3. 茶葉の収穫	収穫時期、収穫方法、収穫量など
4. 茶葉の製茶	製茶工程、製茶設備、製茶技術など
5. 茶葉の品質管理	品質検査、品質向上策など
6. 茶葉の流通	流通経路、流通コストなど

写真4 一本化した茶園管理ごよみ

これまで南薩地区茶園管理ごよみには、農薬登録の違いなどから、一般と米国向けの2種類の防除体系を記載していたが、国外での農薬登録や生産者の理解が進んだことから、防除体系を一本化し、輸出可能な茶の生産を推進しやすくなる見込みとなった。

(3) 消費拡大・ブランド力向上支援

ア 消費・流通拡大活動支援

小学生や高校生、観光ホテル等を対象と



写真5 ホテル従業員へのお茶いれ教室

したお茶の淹れ方教室、県内外のイベント等での茶PRなど茶生産者組織による消費拡大活動を支援した。また、知覧茶規格統一審査会などを通して仕上げ茶の品質向上の取り組みを支援し、仕上げ茶販売に取り組む農家数が増加した。

イ 多様な茶種の生産販売拡大

2020年に南九州市で開催される「全国お茶まつり鹿児島大会」に向けて、普通煎茶に加え、新たな茶種の生産対策について情報収集や指導を行い、自然仕立て園による手摘み茶、てん茶、玉露を出品した。

新たな取り組みとなる茶種の生産では、栽培技術や製造技術など改善を要する課題が数多く残されている。



写真6 出品茶園秋整枝検討会

4 今後の課題

- (1) スマート化した生産工程情報管理の地域への実証・普及と市場に求められる国際水準GAP認証の推進。
- (2) 品質を確保した単収向上の対策検討や輸出茶生産と有機茶園の団地化推進
- (3) 都市圏における市場開拓と全国お茶まつり大会の成功を契機とした、新たな茶種生産技術の確立

5 担当した普及職員 (〇はチーフ)

〇崎原, 大迫, 上園, 田代, 本田 (片岡)